

中 建 第 262 号
平 成 20 年 11 月 7 日

国 土 交 通 省 道 路 局 長 様

中 条 村 長 久 保 田 元 夫



今 後 の 道 路 行 政 に つ い て の 意 見 ・ 提 案 の 提 出 に つ い て

こ の こ と に つ い て 、 下 記 の と お り 提 出 し ま す 。

記

別

紙

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

長野県中条村

都会への高資本の導入に比べて、費用対効果を名目にした地方への道路施策の後退。
維持管理財源の確保（補助金・交付税など）。

今後の道路行政についての意見・提案

様式②

②-1 地域の現状と抱える課題

長野県中条村

<p>○現状</p> <p>長野県内特に山間地においては</p> <p>① 道路用地として土地取得をする場合、工事費や利便性を顧慮すると、今時点耕作している農地を道路用地として取得することから、荒廃農地が増える中において、優良耕作地を減らす事になってしまう。</p> <p>② 傾斜地に道路を造るため構造物を必要とし、工事費が多くかかる。</p> <p>③ 費用対効果を問題視され、防災上必要な道路建設に、ストップがかかってしまう。</p> <p>④ 過疎化が進む中、生活道路の維持管理、草刈や補修が人的不足、財政のひっ迫により満足に行われなくなっている。山間地における道路の維持管理作業を受け持つ地域住民の作業量は、都市部・市部とは格段の差がある。</p>	<p>○課題</p> <p>近年の地震・台風・豪雨による災害発生時の道路の寸断はまさに目に余るものがあり、山間地における災害発生は地域住民の孤立を引き起こし、生命の安全をも確認できないような状況に追い込まれる事がある。災害が発生しても地域が孤立しないような対策が求められる。</p>
---	---

様式③

今後の道路行政についての意見・提案

2-2 地域の目指すべき将来像

長野県中条村

過疎化・高齢化が進んではいる現状ではあるが、過疎化に歯止めをかけるには地域産業の振興をはかり、若年層の県内定住を促進し働き場所を確保していく事が、重要である。新しい技術の開発や導入をしながら魅力ある職場環境を作っていくなければならない。

また、近年の地震・台風・豪雨による災害発生時の道路の寸断はまさに目に余るものがある。災害が発生しても陸路を通じての救助・支援活動ができる道路の確保

そのための、迅速な輸送手段の構築は道路の改良、交通制御システムの導入を含めた交通網の整備が必要ではないか。生活道路における維持管理が行き届いた道路政策。山間部住民の維持管理作業量の軽減を図る。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

長野県中条村

○ 重点事項	○代表事例	○ 期待する効果や評価等	○その他
山間地生活道路の維持管理 地域活力の向上 危機管理の強化 少子・高齢社会に対応した子育て環境、バリアフリー社会の形成	大型重機による草刈作業 4(5)規格による道路設計施工	高齢化・過疎地域の労務軽減 工事費の縮減と迅速な施工	